

札幌市立新琴似緑小学校の取組【雪に関する教育課程】

1 研究のねらい

札幌の特色の一つである「雪」について系統的に単元化し、地域社会や自然・人を取り上げ、自分自身とのつながりを学習することを通して、身近な環境に親しんだり、地域の一員としての在り方を考えたりする。さらに、「雪」と「緑小」と故郷「新琴似」を意識し、積極的に他学年や保護者、地域に発信し実践する力を養う。

2 取組内容

(1) 「雪の結晶を調べよう」(3 学年)



自分の家の近く、学校の周りの雪の結晶を調べ、ミクロの世界の美しさを実際に見ることにより、雪に対する興味・関心を高めた。その後、コンピュータを活用し、雪の結晶についての知識や理解を深めた。単元の終わりには、調べたことや感想を冊子にまとめ交流した。

(2) 「安全ですみよい新琴似～除雪～」(4 学年)

北区土木部の方に来校していただき、札幌の冬道や除雪についての話を聞いた。その後、モーターグレーダー・タイヤショベル・ロータリーなどの除雪機を見学した。

さらに、自分の家の近く、学校の周り、公園、防風林などの雪の様子を調べ、身近な除雪、排雪の現状や工夫、問題点について調べた。その解決方法を考えるために、家庭や地域の人々の工夫や、雪や除雪などに対する考えをインタビューして情報を集め、自分たちにできることを考え、解決策をポスターや新聞にまとめた。



(3) 「雪と私たち」(5 学年)

各自、雪について調べるテーマを決め、コンピュータを活用し紙面にまとめた。テーマは様々で、「つらら」「ホワイトアウト」「日本の最低気温」など多岐にわたった。それを交流することにより、自分が興味をもったテーマについて、更に詳しく調べ、互いに交流した。調べ活動の中で、自分たちで取材したり、体験したりした感想を交流することを通して、雪や冬に関する知識・理解、興味・関心を高めた。



(4) 「雪を活用しよう」(6学年)

冬の生活を豊かなものにするイベント、雪を活用する産業やエネルギーとしての雪の活用、冬のスポーツなどを調べ、まとめた。その後、調べたことを交流し、その成果をサッポロファクトリーで行われる「雪と暮らすおはなし発表会」で発信した。雪を活用し自分たちの生活を豊かにする取組、冬の食生活に直結している有効な雪の利用方法など、雪によりもたらされる恩恵を理解した。



(5) 「チャレンジ雪積み大会」(全学年)

異学年交流のグループに分かれ、制限時間内で雪をどれだけ高く積めるかを競い合う活動を行った。異学年の子と交流・協力し合い雪を高く積む活動を通して、集団への所属感、同じ目標の達成へ向け協力する自主的・実践的な姿勢を養うとともに雪遊びを通して札幌の冬に親しむことをねらいとした。司会・進行、雪積みを行う場の設定、記録・計測、時間計測等の仕事をチャレンジふれあい委員会の児童が担当した。また、事前にチャレンジふれあい委員会の児童が各クラスへ行き、種目説明等を行い、各グループでの作戦会議の場を設け、道具や役割などを話し合い当日の活動に備えた。



3 成果と課題

(1) 成果

雪の結晶観察キッドを利用した雪の結晶を見る取組や、校区の除排雪状況を実際に調査する活動等を通して、興味・関心をもち、問題意識を高めた。

調査活動を通して、人々はどのように雪や冬と向き合ってきたのかを知り、自分自身も札幌人としてどのように向き合っていけばよいか、考えをもった。

調査活動では、課題を限定することで、膨大なインターネットのデータから必要なものだけを活用することで、余裕をもって、プレゼンを作成することができ、相手に伝わりやすいような紙面の構成を考えた。

雪を生かした取組が実は身の回りにたくさんあり、そうした取組が人々の生活を豊かにしたり、便利にしたりすることに気付くことから問題意識をもった。

(2) 課題

時期や天候によって雪の結晶が見えにくいので、天気や気温に気を配る必要がある。